

令和7年度第2回独立行政法人造幣局契約監視委員会議事概要

開催日時及び場所 令和7年12月17日（水）9時30分～10時30分 造幣局会議室

委員 瀧 洋二郎（浅岡・瀧法律会計事務所 弁護士）
石田 眞得（関西学院大学法学部 教授）
桑田 周一（独立行政法人造幣局 監事）
副島 茂（独立行政法人造幣局 監事）

審議対象 個々の契約案件の事後点検【令和7年度上期（4月～9月）】

- | | |
|--------------------------|------|
| （1）新規の随意契約となった案件 | 6件 |
| （2）2か年度連続一者応札・応募契約となった案件 | 4件 |
| ・うち一般競争入札で一者応札のもの | （0件） |
| ・うち公募で一者応募のもの | （4件） |

調達等合理化の推進に向け議論すべき事項

- | |
|---|
| （1）合理化計画の実施状況の点検 |
| ・契約全体の一覧表による点検 |
| （2）随意契約における予定価格の適正性及び価格合理性の担保に係る点検 |
| ・随意契約及び一者応札・応募契約におけるいわゆる落札率（契約金額／予定価格）による点検 |

委員からの意見・質問、それに対する回答等

下記のとおり

委員会による意見の具申又は勧告の内容

特になし

意見・質問	回答
<p>『個々の契約案件の事後点検』について (競争性のない随意契約について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貨幣極印棟外壁補修工事は緊急性があったので仕方ないと思う。ただ、建物の定期的な修繕もあると思うが、そこはしっかりとやっているのか。とすれば、契約は競争性をもたせて実施しているのか。 <p>(一者応札・応募となった案件について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「製造貨幣等輸送作業」について改善措置として公告期間の延長とあるが、元々どれくらいの公告期間だったのか。次に、運送業者団体へのヒアリングは行ったのか。また、仕様書をどう変えて、どのような効果を見込んでいるのか。 <ul style="list-style-type: none"> ・業者からの聞き取りにおいて、輸送日時や数量の通知が直前となり、車両のやりくりが厳しいという話があるが、前もって計画的にできないのか。 <ul style="list-style-type: none"> ・サプライチェーン維持のために具体的にどのような取り組みをしているのか。発注する担当課の具体的な取り組みを教えてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修繕に関する工事は計画的に行っている。この貨幣極印棟の場合は剥落による事故の可能性があったので緊急対応とした。定期的な修繕は競争入札で行っている。 <ul style="list-style-type: none"> ・公告期間は元々10日程度で、それを営業日ベースで10日となるように延長した。運送業者団体にヒアリングを行ったが良い返事はなかった。個別業者11社に聞き取りを行った。仕様書の見直しは、車高や車幅などの制限を可能なところまで緩めることで、現状運送業者が所有しているトラックでも対応可能にし、入札参加者を増やす目的である。ただ、日銀の入構制限にどこまで対応できるかは難しい。 <ul style="list-style-type: none"> ・入構制限がかかる現在のトラックでは運べる量が限られ、依頼するボリュームを運ぶには台数が必要であり、直前に連絡されても手配は難しいとのことであった。制限を緩めて許容量の大きいトラックが入れれば、台数は減り対応しやすくなる。また、貨幣製造は財務省本省と契約し、その指示で日銀に納品するため計画的に対応するのが難しい。 <ul style="list-style-type: none"> ・貨幣極印下地は、貨幣に模様をつけるための鋼材を加工する下地である。現在、造幣局では下地の形で購入するだけでなく、別メーカーから極印鋼材を調達し、自局で製造する体制をとっている。鋼材は国内外から広く調達している。

<p>『合理化計画の実施状況の点検』について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低入札案件で納品された製品の仕上がり、完全性や安全性はどう担保しているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勲章部品については、一部の加工を外注しているが、特殊な技術が必要で対応できる業者も限られていることから、類似の加工を行う業者と協力しつつ、将来的に複数の業者が対応できるよう取り組んでいくことが課題と考えている。 <p>資材調達では工芸品仕様のケースなども扱っているが、職人の高齢化で対応できない業者が増えているため、異業種も含めて新たな供給先を開拓している。展示会などを通じて加工可能な業者を探し、こうした取り組みを継続している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低入札案件に限らず、契約後は担当課が相手先と仕様の内容確認や調整を行っており、成果物の確認作業を着実に行うよう協議している。納入後は検査を実施し、完了を確認しており、担当課で適切に把握している。
--	---